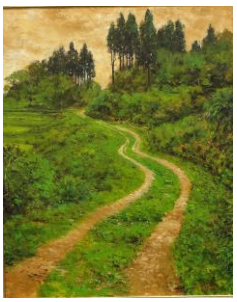
四十一回展　受賞者と作品コメント

早田美智子(東京)

参議院議長賞
「道・その先へ」
油彩 F100



草を踏んだり泥水に浸かったりすると、人は心をもっていかれるようです。足元の草の感触や、空気や風が絵に紛れ込んでくれることを願いつつ描いてみました。
大きな賞を賜り恐縮です。有難うございました。

石川重利(広島)

衆議院議長賞
「煤竹造喰籠」
工芸24×32×19cm

煤竹は今の時代では希少品で入手が難しい。
昔は建築資材であったが、時代を超えて趣きのある煤竹を生かせる形に変えるなどして作品を創作する。

小高峯夫(埼玉)

文部科学大臣賞
「それぞれの刻」
油彩 F100

とめどなく寄せる波、湧き立つ雲、人はここにきて遊び、または糧を得る活動をする、それぞれ何かに突き動かされている。人だけでなく鳥や魚、動植物みな精一杯生きている。

小柳元枝(東京)

東京都知事賞
「古都好日
(ハイデルベルク)」
油彩 F100

一昨年に渡独した際の歴史的最古の建物が連なる街、ハイデルベルク。

古い中世の煉瓦造りの重厚な教会や大学など。活気のある生活感と人々の往来、構図を考える余裕もなく下手な写真をもとに搬入間際まで悩み自己の技量の稚拙さに向き合いながらの制作でした・・・。幸運にも賞を賜り感謝の思いでいっぱいです。有難うございました。

上野　茂(栃木)

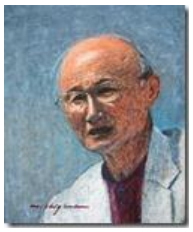
東京都議会議長賞
「400年の跡」
油彩 F100

私は今自然をテーマに描いています。塩原の自然・佐貫観音そして杉並木、毎回何を描くかが悩みの種です。今回の「400年の跡」ですが栃木と言えば世界遺産の日光があり四00年の歴史の中で二社一寺は光が当たりそれを影で見守ってきてくれた様な杉並木、四00年の入り口である。風雨に耐え朽ちてなお又芽吹く色々な「跡」がある。そんな力強く雄大な所を描ければと思いました。

倉田遼一(東京)

東京都議会議長賞
「碧釉菊花紋壺」
陶芸30×31.5cm

奥深い窯変で紋様を浮かび上がらせる釉薬の魅力にチャレンジ、**菊花石**の紋様にヒントを得て**菊花紋**を出すことに注力しました。



千木良宜行(埼玉)

新日美大賞
「天馬の広場」
油彩 F100

子供達の歓声、つまり見えないモノです。
最近は空気感・風・音・気配・霊気などを描くことに、意欲を持っています。

藤田有里子(兵庫)

新日美大賞
「母なる海」
平板工芸110×83cm

海という字の中に母という字が含まれているように、生命の源である大海とそれを照らす月とを表現しています。